

星野 郁 教授 略歴・主要著作目録

略 歴（学歴および職歴）

1981年3月	金沢大学法文学部経済学科卒業
1984年3月	九州大学大学院経済学研究科修士課程卒業
1987年3月	九州大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学
1987年4月	九州大学助手
1988年4月	國學院大學経済学部専任講師
1991年4月	國學院大學経済学部助教授
1998年4月	國學院大學経済学部教授
2005年4月	立命館大学国際関係学部教授（現在に至る）

学位／経済学博士（京都大学）

専門分野／ヨーロッパ統合

研究課題／ヨーロッパを中心とする世界経済の動向

（主な学内役職歴）

国際関係学部副学部長（研究科担当）（2008年4月～2010年3月）

国際関係学部副学部長（企画担当）（2015年4月～2016年3月）

キャリアセンター副部長（2016年4月～2018年3月）

入試問題作成副総主査（2019年4月～2020年3月）

入試問題作成総主査（2020年4月～2021年3月）

国際関係学部副学部長（入試担当）（2022年4月～2023年3月）

（主な研究業績）

『EU 経済・通貨統合とユーロ危機』日本経済評論社、2015年

『ユーロで変革進む EU 経済と市場』東洋経済新報社、1998年

「新型コロナ危機を受けた EU 及び加盟国の対策と統合の行方」『国際経済』日本国際経済学会

73 卷、2022 年

「ユーロの安定はどのように確保されるのか」 蓮見雄・高屋定美編著『沈まぬユーロ—多極化時代における 20 年目の挑戦』文眞堂、2021 年

「アメリカの通貨・金融覇権に対する EU の挑戦と行方」 松本朗編著『グローバル経済と債務累積の構造』晃洋書房、2021 年

学会および社会における活動など

日本 EU 学会理事

日本国際経済学会会員

信用理論研究学会会員

証券学会会員

研究業績

著書

(単著)『ユーロで変革進む EU 経済と市場:21 世紀に向けた欧州の構造改革』東洋経済新報社、1998 年 4 月

(共著)「グローバリゼーション下の欧州統合とユーロの課題」 紺井博則・上川孝夫編著『グローバリゼーションと国際通貨』日本経済評論社、第 7 章、pp.134-160、2003 年 12 月

(共著)『現代世界経済システム：グローバル市場主義とアメリカ・ヨーロッパ・東アジアの対応』立石剛・津守貴之・星野郁著、八千代出版、2004 年 10 月

(共著)「グローバリゼーションと EU」 新岡智・板木雅彦・増田正人編著『国際経済政策論』有斐閣、第 12 章、pp.205-224、2005 年 8 月

(共著)「EMS」『金融のグローバリゼーションの理論』信用理論研究会編、大月書店、第 6 章「ユーロの誕生とその衝撃」第 1 節、pp.232-240、2006 年 5 月

(共著)「欧州通貨統合史」 上川孝夫・矢後和彦編著『国際金融史』有斐閣、第 7 章、pp.219-248、2007 年 2 月

(共著)「ヨーロッパ経済の現状と課題」 岩本武和・奥和義編著『グローバル・エコノミー（新版）』有斐閣アルマ、第 9 章、pp.266-295、2007 年 7 月

(共著)「単一通貨ユーロの現状と展望」 岩本武和・奥和義編著『グローバル・エコノミー（新版）』有斐閣アルマ、第 10 章、pp.296-324、2007 年 7 月

(共著)「知識基盤型経済に向けた EU の取り組みと課題」 関下稔・中川涼司編著『知識資本の

- 国際政治経済学—知財・情報・ビジネスモデルのグローバルダイナミズム』同友館、pp.69-98、2010年6月
- (共著)「ヨーロッパにおける労働市場改革の展開と課題」田中素香編著『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房、第8章、pp.179-202、2010年9月
- (共著)「ユーロとドル体制の将来」田中祐二・中本悟編著『地域共同体とグローバリゼーション』晃洋書房、第7章、pp.113-136、2010年11月
- (共著)「金融・経済危機とEU経済・通貨統合の行方」福田耕治編著『多元化するEUガバナンス』(早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書35)早稲田大学出版部、pp.39-62、2011年10月
- (共著)「単一通貨ユーロの現状と展望」『グローバル・エコノミー(第3版)』有斐閣アルマ、第10章、pp.247-275、2012年3月
- (共著)「ヨーロッパ経済の現状と課題」『グローバル・エコノミー(第3版)』有斐閣アルマ、第9章、pp.276-306、2012年3月
- (共著)「雇用・社会保障政策とEU—危機に瀕するEUの雇用」羽場久美子編著『EU(欧州連合)を知るための63章』明石書店、第55章、pp.313-316、2013年9月
- (単著)『EU経済・通貨統合とユーロ危機』日本経済評論社、2015年9月
- (共著)「アメリカの通貨・金融覇権に対するEUの挑戦と行方」松本朗・紺井博則編著『グローバル経済と債務累積の構造』晃洋書房、第3章、pp.313-316、2021年3月
- (共著)「ユーロの安定はどのように確保されるのか」蓮見雄・高屋定美編著『沈まぬユーロ：多極化時代における20年目の挑戦』文眞堂、pp.35-61、2021年3月
- (共著)「混迷深まる英国経済—環境金融と経済連携に活路を見出せるか」『ブレグジット後の英国とEU新時代の課題と展望』日本経済研究センター、第2章、pp.33-53、2022年3月

論文

- (単著)「北欧の福祉国家と社会モデルの現状と可能性」『研究年報経済学』東北大学、66巻3号、pp.455-479、2005年2月
- (単著)「中東欧諸国の労使関係とEU社会的対話の行方」『日本EU学会年報』有斐閣、25号、pp.115-138、283、2005年9月
- (単著)「経済・通貨統合と拡大に伴うヨーロッパの労働市場と労使関係の変容」『立命館国際研究』20巻3号、pp.113-152、2008年3月
- (単著)「ヨーロッパの金融構造の変貌と金融危機」『世界経済評論』世界経済研究会53巻3号、pp.22-32、2009年3月
- (単著)「欧州金融危機の実相と展望」*Business & Economic Review* 日本総研 Vol.20 No.4、

- pp.25-46、2010年3月
- (单著)「ユーロ危機—その背景と行方—」『経済科学通信』128号、pp.25-30、2012年4月
- (单著)「ユーロ危機とヨーロッパ統合の行方」『神奈川大学評論』73号、pp.93-103、2012年11月
- (单著)「ヨーロッパの銀行に対するユーロ危機の影響と銀行改革の行方」『金融構造研究』金融構造研究会35号、pp.64-78、2013年5月
- (单著)「ユーロ圏の銀行改革と銀行同盟の進展はユーロ圏の金融システムの安定化に繋がるか?」、WEBコラム『世界経済評論 IMPACT』http://www.sekaikeizai.or.jp/active/article/140324hoshino_kaoru.html、2014年3月
- (共著)『エルッキ・リーカネンを座長とするハイレベル・エキスパートグループ著 EU 銀行業部門の改革に関する最終報告書』(Final Report, High-level Expert Group on reforming the structure of the EU banking sector Chaired by Erkki Liikanen.) (「3 ヨーロッパにおける銀行ビジネスモデルの多様性」を担当)『経済学論纂』中央大学、55巻1号、pp.1-164、2014年4月
- (单著)「ヨーロッパ統合は危機を通じてしか発展しないのか」WEBコラム『世界経済評論 IMPACT』http://www.sekaikeizai.or.jp/active/article/140804hoshino_kaoru.html、2014年8月
- (单著)コメント「グローバル金融・財政危機と国際通貨体制」『国際経済』日本国際経済学会65巻、pp.63-65、2014年11月
- (单著)「EUにおける証券化再生の試みとその問題点」『経済学論纂』中央大学、55巻5・6号、pp.209-228、2015年3月
- (单著)「ユーロ危機の新段階とEUにおける危機対策の批判的検討」『同志社商学』66巻6号、pp.87-112、2015年3月
- (单著)「EU離脱後の英国の行方 金融の特権的地位喪失へ」『日本経済新聞』、p.29、2016年8月4日
- (单著)「EU銀行同盟と銀行構造改革に関する批判的考察」『国民経済雑誌』神戸大学、217巻1号、pp.37-71、2018年1月
- (单著)「ユーロ圏経済の現状と展望」『學士會会報』937号、pp.33-38、2019年7月
- (单著)「英総選挙とEUの未来(下)」『日本経済新聞』、p.29、2019年12月20日
- (单著)「コロナ危機下のヨーロッパ経済とEU統合の行方」『国際経済』日本国際経済学会、72巻、pp.41-66、2021年10月
- (单著)書評「植田隆子編著『新型コロナ危機と欧州—EU・加盟10カ国と英国の対応』文眞堂」『図書新聞』3518号、2021年11月1日

(単著)「新型コロナ危機を受けた EU 及び加盟国の対策と統合の行方」『国際経済』日本国際経済学会、73 巻、pp.5-37、2022 年 8 月

(単著)「窮地の英国経済 EU 離脱後の長期戦略欠く」『日本経済新聞』、2022 年 12 月 14 日

その他

(単独)「経済・通貨統合と拡大に伴うヨーロッパ労使関係の変容」日本 EU 学会第 28 回大会、2007 年 11 月

(単独)「ユーロの現状と行方」2010 年度金融学会秋季大会共通論題「金融危機下のユーロ」、2010 年 9 月

(単独)「ユーロと世界経済危機」早稲田大学 EUIJ 記念講演会、2011 年 6 月

(単独)「ギリシャ危機とユーロの行方」立命館大学土曜講座、2011 年 12 月

「ユーロ危機の新局面—危機からの脱出は可能か?—」経団連付属経済広報センター主催シンポジウム「ユーロ危機の現状と評価、世界経済へのインプリケーション」、2012 年 6 月

「ユーロ危機の欧州金融機関への影響と銀行同盟の創設を始めとする銀行改革の行方」金融構造研究会、2012 年 12 月

(単独)「EU の危機とドイツ」国際経済シンポジウム「EU 危機と欧州民主主義」、2016 年 3 月

(単独)「EU はどこに向かうのか—ユーロ危機、難民危機、英国の離脱、そしてドイツの動向が示唆するもの—」比較経済体制研究会 2016 年全国大会、2016 年 9 月

(単独)「新型コロナ危機後のヨーロッパ経済と統合の行方」日本国際経済学会第 79 回全国大会、2020 年 10 月

(単独)「ユーロの長期的安定のためには何が必要か」日本 EU 学会第 41 回研究大会、2020 年 11 月